

# えにわ 感染対策チームだより Vol.10

回覧

令和3年4月20日発行

## 新型コロナウイルス ワクチン接種と感染対策



### 新型コロナウイルスワクチンの効果

高齢者や持病のある方にとって、新型コロナウイルス感染症は重症化したり死に至る可能性のある感染症です。

ワクチン接種に期待する効果は『**発症予防**および**重症化予防**』です。『新型コロナウイルスに感染すること』や、『だれかに感染させること』を防ぐ効果はありません。

そのため、**ワクチン接種に関わらず、マスク着用などの感染対策は継続する必要があります。**



新型コロナウイルスワクチンは、筋肉内に接種（筋肉注射）します。ワクチン接種により十分な免疫を得るためには、合計2回の接種が必要です。1回目の接種後、一定の間隔を開けて2回目の接種を行います。

新型コロナウイルスに感染したことがある方でも、2回の接種が推奨されています。

### ワクチン接種を受ける際の注意点

#### 1) ワクチン接種直後から数日間の注意点

- ワクチン接種直後から15分～30分間は、急に起こる副反応に備えて接種を受けた施設内で経過観察を行います。
- 接種当日から入浴は可能ですが、注射した部分をこすらないようにして下さい。
- 接種当日の激しい運動は控えて下さい。
- 接種後2～3日の間は、頭痛や倦怠感、発熱などの副反応が見られる可能性があります。数日経過しても改善しない場合は、かかりつけ医または接種を受けた医療機関を受診しましょう。



#### 2) 日々の感染対策と健康観察

- ワクチンには感染を予防する効果はありません。ワクチン接種後も、手指衛生や外出時のマスク着用、屋内の換気など日々の感染予防は必要です。
- ワクチン接種後も、毎日の検温などこれまで通りの体調確認を続けましょう。



### ワクチンによる副反応とその対応

発症時期	症状	対処方法
接種直後～接種当日	まれに起こる副反応 ・迷走神経反射※1 ・アナフィラキシー※2	・迷走神経反射は、通常横になって休むことで回復する症状です。 ・アナフィラキシーには、医療機関で医薬品を使用した対処が必要です。
接種当日～数日間	発症頻度の高い副反応 ・注射した部分の痛み ・頭痛 ・発熱 ・疲労感 ・関節や筋肉の痛み	・症状に応じて解熱鎮痛剤を服用します。 ・自宅にて安静に過ごします。通常、接種後数日以内に回復します。



疲労感や関節痛、発熱の症状は、1回目より2回目接種後の方が出やすいと言われています。

※1) 強い緊張や痛みをきっかけに、立ち眩みや血の気が引く様な感じとともに意識を失うことがあります。

※2) 全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難感、頻脈、血圧低下等の症状が出現するアレルギー症状です。

気分が悪くなる等、異常を感じた場合は我慢せずに速やかに医療スタッフへお知らせください。

### 予防接種を受けることが出来ない人

下記に該当する可能性がある場合は、事前にかかりつけ医に相談しましょう。

- 明らかに発熱している人
- 重い急性疾患にかかっている人  
現在、治療中の病気がある場合は、かかりつけ医に相談しましょう。
- ワクチンの成分に対し重度の過敏症※3の既往歴のある人  
ワクチンの添加物（ポリエチレングリコール等）に対しアレルギー症状が出た経験のある人は、ワクチン接種後にアナフィラキシーを発症する可能性があります。ポリエチレングリコールは界面活性剤、保湿剤、下剤、整腸剤、錠剤のコーティング等に使用されています。



※3) 全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難感、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる症状です。

文責：感染管理認定看護師 嶋貴祐子

### えにわ感染対策チーム こひりんす

代表 樋口 秋緒（恵み野訪問看護ステーション「はあと」）  
問合せ先 連携センターりんく（恵庭市在宅医療・介護連携支援センター）  
☎ 0123-36-0101